

Organo de HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO

Heroldo de HEL

N-ro 142

julio 2012

HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO

北海道エスペラント連盟

[Enhavo/目次]

- 表紙、Enhavo/目次 P. 1
- Ek al La 99-a Japana Kongreso! / さあ、日本大会 P. 2
 (10月、札幌)へ! / LKK (現地実行委員会) 星田 淳
- Memprezento/自己紹介/ JANAGI Koozaburoo/柳幸三郎 (札幌) P. 3
- Adiaŭ, malnova samideano 土田虎幸! / Kiam reviviĝos nia afero en Otaru? (S-roj 土田、山本、小樽E. 協会、LEONTODO のころ) / HOŝIDA Acuŝi
- Pri prelego de ajnua kulturo en JEK/日本大会の中での P. 5
 アイヌ文化の催しについて / JOKOJAMA Hirojuki/横山裕之
- Danke ricevitaj -受領郵便物- (星田淳 扱い) P. 9
- Protokolo de la 13a Kunsido de Loka Kongresa Komitato por P. 11
 la 99a Japana Esperanto-Kongreso / [第99回日本大会13回
 LKK 会合 議事録]
- Protokolo de la 6-a Komitato Kunsido de HEL P. 13
 北海道エスペラント連盟 第6回委員会議事録
- [編集後記/Redaktanto parolas ...] P. 14

Ek al La 99-a Japana Kongreso!

さあ、日本大会（10月、札幌）へ！

LKK（現地実行委員会） 星田 淳

日本大会が近づきました。前回の大会から24年、久しぶりに全国各地からのエスペランチストを北海道に迎えます。「秋の北海道が楽しみ」とのたよりが来ています。このめったにない機会、来道する方々に北海道を知ってもらい、我々は道外の仲間はどうのように活動しているかを知ることができると思います。

今大会プログラムが組まれているところですが、第1日（10月6日）の行事の中では「エスペラント会懇談会」に注目したい。各地でどのように活動が進められているか、どんな問題にぶつかり、どう対応しているか。直接話を聞ける機会です。

エスペラント運動とは何か。第1回世界大会（1905年）で決定されたいわゆるブローニュ宣言はこう述べています。

”La Esperantismo estas penado disvastigi la uzadon de lingvo neŭtrale homa”

「エスペラント運動（Esperantismo と表現）とは 中立的な人間のことば（エスペラント）の使用を広げるための努力である」

この原文の uzadon（使用を）は よく省略されているが これに重要な意味がある、との意見があります（La Movado junio 2012\Kajero Libervola）。

言語とは話されたコトバと書かれたテキストの総体であるという見方がありません。とすればエスペラントの各種文献を増やすことは重要なエスペラントの普及活動だと言えます。

かって「日本からエスペラントで世界に発信しよう」とのスローガンが叫ばれ、まず民話を、と各地で民話集が訳されました。北海道でも、と考えたが、ここはもともとアイヌモシリだったことに気づき、Ainaj Jukaroj（アイヌ神謡集）の翻訳出版となりました。その後しばらく北海道からの発信は途絶えましたが世紀の変わることからぼつぼつと再開され、この大会では「よみがえれ、えりもの森」を記念品にすることができました。今後北海道から発信するテーマは何になるか、大会でいい収穫がある、と期待します。

外国からの参加者とは2日目（10月7日）の分科会で交流の機会があります。ロシアからの参加が取りやめになったのは残念ですが、ドイツからの S-ro Kleemannは札幌の姉妹都市ミュンヘンともかわりがありますので姉妹都市交流を築くチャンスにしたいものです。まず参加しましょう！

Memprezent o / 自己紹介

JANAGI Koozaburoo / 柳幸三郎 (札幌)

先日はメールで原稿依頼をお受けしました。自己紹介の機会を与えられたことを感謝します。

4月に稚内を最後に退職し、一つの楽しみをもって札幌に移り住んできました。札幌にはエスペラント会があることを知っていたからです。二十歳の頃出会ったエスペラントで、随分年数を過ごしてしまったのですが、独学のわびしさにくじけ勝ちでした。三〇代富山でザメンホフの研究家、日常語辞典の編集者・野村理兵衛にお会いして大変お世話になったことは忘れられないが、その他には、なかなか仲間に出会えず、共に学ぶ機会に飢えていました。考えてみれば、いろいろ妄想していました。でも実際札幌に移り住んで以来、一緒に読み、世界的なつながりの中で会話を交わし、平和の言葉を生かし用いることの難しさを思い知らされてきました。先ず力を養うこと。でももう人生の夕暮れですから、焦ってしまいます。3つ共、一緒にしなければなりません。でも焦っても始まりませんよね。現在札幌で週一の読書会にご一緒させていただき、楽しませていただいています。

エスペラント語をデナスカのように自分の言葉としてあやつれたらいいなというようなことを言っていたら、それは一生どころか「何しよう」かけても無理ですよと笑い飛ばされ、そうだよなと自分でも認めて一緒に笑ってしまいました。平和の言葉として生かす道についても話してはみましたが、それをして会が内紛する危機も味わってきたお話しを聞いて、なるほどと、ちょっとだけ納得してまいりました。実際道は遠いが、いつまでも手がかりが何一つ見えて来ないはずはないぞと自分に言い聞かせています。倦まず弛まず歩き続ければ、いつか辿り着くはず。これが現在札幌の会で与えられた小さな、しかし限りなく確かな希望です。こうした希望を持つことも許されず、地方の町々で地道に生き活躍している多くの仲間がいる。そのことを思えば、多くの方に支えられて現在ここにいることの幸いを自分一人のものにしてはならないと、しきりに思わされています。

Adiaŭ, malnova samideano 土田虎幸!

Kiam reviviĝos nia afero en Otaru?

(S-roj 土田、山本、小樽E. 協会、LEONTODO のころ)

HOSIDA Acusi

もと小樽エスペラント協会の古い同志(小金井市在住)に出した葉書に甥の方から返事があった。

「甥の大西 一 と申します。土田虎幸は2月29日他界いたしました。八十歳、

多臓器不全でした。生前故人に寄せられたご厚情にお礼申し上げます」

彼と知り合ったのはもう半世紀以上前、私が初めて出席した北海道エスペラント大会（第17回、1953.10\11~12, 小樽）の時だった。

当時北海道で1番盛んに活動していたのは小樽エスペラント協会で、内容ある機関誌を出していたのもここだけだったと思う。その機関誌 LEONTODO が Eta Literatura Gazeto と銘打って第1号が出たのは1952年2月で同年年末までに4号出している。1952.10.15現在の会員名簿には協会会員39名、客員（小樽市外）16名の名がある。謄写版（ガリ版）印刷のLEONTODOの表紙は号ごとに単色から美しい多色に進化し、機関誌賞を受けていた。

土田さんの文で印象に残ったものは「私はエスペラントを信仰しております」だった。個人的な思い、日常のこと、学習上の問題、など当時のメンバーは実によく寄稿している。ここまで「機関誌」と書いてきたが、当初の目的はそうではなかったことも書いておく必要があるようだ。

LEONTODOの原稿集め、編集、発行に最初からかかわっていたのは当時港湾労働者だった山本昭二郎さんだった。小樽港での重労働をこなしたあとの自由時間をエスペラントのために使っていた彼は重度障害者（全聾）である。彼はこう書いていた。

Leontodoはgazetoであってorganoではないということ、私は折にふれては言ってきた。では、gazetoとorganoはどうちがうか、———私の観念からすればorganoは団体のためのもので、たのしみは第二義的なものとなっている。このgazeto "Leontodo"の内容はverko主義、すなわち創作主義でやろうというのだ。(elぐちやら がんもうやら en LEONTODO N-ro 3/1952. Okt.)

機関誌でなく書きたいことを書いてのせる同人誌として出発したのだった。今読んでも感ずるが、筆者は（日本語でもエスペラントでも）いかにも楽しんで書いている。レベルや「質」をいえば「模範的」ではなくても、楽しめる、書いている「人」を感じ、ときに「癒される」gazetoだった。

だがこのgazetoも長くは続かなかった。当時継続的な機関誌を発行できなかったHELは2年掛かりの討議の末1954年の大会で「この由緒あるLEONTODOを全道のエスペランティストのために開放され、HELの機関誌とすることを」満場一致で決定し、1955年2月のN-ro 11からLA ORGANA GAZETO DE H. E. L.として発行された。その号の「編集引き継がせのことば」で山本は「Leontodoは今後HELの機関誌になり私は一切責任をとかれ——ほっとしている反面、内心はなかなかさびしい——」と書いている。

今ひたちなか市在住のS-ro山本、7月中旬来道するので「ゆっくり話したい」とのこと、期待している。

Pri prelego de ajnua kulturo en JEK

日本大会の中でのアイヌ文化の催しについて

JOKOJAMA Hirojuki

横山 裕之

Mi priskribas la prelegon kaj tradiciajn dancojn pri ajnua kulturo en la kongreso.

大会の中でのアイヌ文化に関する講演と古式舞踊について述べます。

Unue mi skribas pri la resumo de la prelego pri subpremo kontraux la ajnua lingvo en Hokkajdo.

S-ro YAMADA Sxin'icxi, la cxefo de la 3-a subfako pri kultura afero apartenanta al Historia Muzeo de Hokkajdo, prelegos en 2012-10-07 (dim.) jene.

Titolo: Ajnua lingvo en moderna Hokkajdo

Ekde la jaro 1869, la naskigxo de Hokkajdo, oni igas la etnon Ajnuo vivi kiel minoritato en la nacio Japanio.

Sub la forta premo de la japana lingvo subtenita de la nacio, kiel farigxis la historio de la ajnua lingvo?

Li parolu pri tio laux la vidpunkto kaj de politiko kaj de kutima vivo.

まず、北海道におけるアイヌ語への圧力についての講演の概要について述べます。

北海道開拓記念館の学芸第3課長の山田伸一氏は、2012年10月7日(日)に次のように講じます。

タイトル：近代北海道のなかのアイヌ語

1869年の「北海道」誕生以来、アイヌ民族は少数者として日本国家のなかに生きることを強いられてきた。

国家を背にした日本語の強い圧力を前に、アイヌ語はどんな歴史をたどったのか。

政策と日常世界の両方を視野に入れてたどってみたい。

Due mi skribas pri la ajnuaj tradiciaj dancoj fare de Danca Societo de Nibutani (Prezidanto: s-ino SEKINE Maki) en nia malferma ceremonio.

(En la japana versio la latinaj literoj el la japanaj katakana-aj literoj indikas silab-lastajn konsonantojn de la ajnua ligvo.)

Cxi tiuj dancoj estis klasifikitaj kiel 'Nacia Grava Nepalpebla Etna Kultura Trezoro' en la jaro 1984.

Kaj en 2009-09-30 UNESKO registris tiujn kiel 'Nepalpebla Kultura Heredajxo.'

Unue la kanto kun sidanto, 'Upopo', estos kantita.

Oni kantas batante kovrilon de la ujo 'Sxintoko.'

En la vilagxo Nibutani oni rondkantas dueton aux trion.

Tio estas ankaux signo, 'Jen, de nun kanto kaj danco komencigas.'

La signifo de unua konto de 'Upopo' estas, ke "Dio falis de orienta cxielo, kaj sidas sur brancho de la japana fraksena arbedo 'Aodamo.' Mi auxdigxas longan sonon de la vocxo."

Cxi tiu 'Dio' estas 'kotan-kor-kamuy.' La 'kotan' estas 'vilagxo', la 'kor' estas 'havi', kaj la 'kamuy' estas 'Dio.' Tio estas la Hokkajda strigo 'Sximahukuroo' onidire.

Sekvante oni vidos la murhirundan dancon 'Cakpiyak.' Tio estas danco esprimanta, ke murhirundoj flugas sur la cxielo diverse post pluvo.

Kaj oni igos la gruan dancon 'Hararki.'

Se la loko por la danco estas vasta, oni dancas formante tri rondojn, longan rondon meze kaj mallongajn rondojn ambaux flanke.

La longa rondo signifas la korpon de gruo. La mallongaj rondoj signifas la flugilon.

Cxiuj anoj dancas largxe kiel unu gruo.

Trovigxas sonoro, tremigi langon, en la danco.

Tio estas 'Hororse.' Tio estas similajxo de grua vocxo onidire.

Sekvante oni ludos la ajnua busxharpo 'Mukkur.'

'Mukkur' estas ajnua reprezenta muzikilo, unu speco el busxharpoj, cxie tra la tuta mondo.

La ilo estas farita el bambuo. Oni tiras sxnureton el la bambuo, kaj sonas vibrante la sxnureton.

Oni sxangxas la sonoron blovante kaj elspirante.

Iam la viroj faris tiun por donaco al virinoj. Kaj oni uzis tiun por esprimo de amo ludante 'Mukkuri' enamigxante.

Kaj oni igos la balenan dancon 'Uhunpenere.'

Tio estas danco, ke blinda avino vokas al vidpovuloj, "Vidpovuloj, aliru al marbordon. Aux balaajxo aux baleno estas albordigita. Vidpovuloj, aliru al marbordon.", kaj oni portas balenon dirante, "Mi mangxas vangan viadon. Mi mangxas ventran viandon."

Origine oni jxetas rolanton de baleno sur negxon. Sed se ne trovigxas negxo, oni ne povas jxeti tiun. Tial rolanto sxangxas homon en pupon. Kaj oni dancas uzante la pupon.

Laste oni igos la rondan dancon 'Horippa.'

Tio estas danco, ke cxiuj dancas en rondo cxirkaux fajrejo, kiam finigxas kaj ceremonio kaj festo de ajnuo.

Antaux longa, longa tempo oni dancadis kiom ajn da horoj.

En la regiono Biratori oni nomas tiun 'Horippa', kaj en aliaj regionoj 'Rimse.'

Jen finigxas la klarigo pri resumo de la tradiciaj dancoj. Iyayraykere. (Dankon!)

次に、開会式に演じる二風谷舞踊会（代表：関根真紀さん）による「アイヌ古式舞踊」について述べます。

（日本語版の中にあるカタカナの中にある英字は、アイヌ語の音節末の子音を示しています。）

この古式舞踊は1984年に国の「重要無形民族文化財」に指定されています。

また、2009年9月30日には「ユネスコ」により「無形文化遺産」に登録されました。

はじめに「ウポポ」という座り歌を歌います。

「シントコ」という容器のふたをたたきながら歌うものです。

二風谷では二部、または三部輪唱で歌います。

これは、「さあ、今から歌や踊りが始まりますよ。」という合図にもなります。

「ウポポ」の最初の歌は、「東の空から神様が降りてきて、アオダモの木の枝にとまっている。その鳴き声の長い響きを私は聞いた」という意味です。

ここでいう神様とは「コタンコ r カムイ」のことで、コタンコ r=村を守る、カムイ=神という意味で、村を守る神様、つまりシマフクロウのことだと言われています。

次に「チャ k ピヤ k」というアマツバメの踊りを見ていただきます。「アマツバメが雨上がりに空を飛び交う様子を表現した踊り」です。

次に「ハラ r キ」という鶴の舞を踊ります。

場所が広ければ真ん中に長い列、両脇に短い列を作り、三列になって踊ります。

真ん中の長い列は、鶴の胴体、両脇の短い列は鶴の翼になります。

全員で一羽の鶴がゆったりと舞う様子を表現します。

踊りの中で、舌を震わせて出す音があります。

これは「ホロ r セ」といい、鶴の声を真似たものだと言われています。

次に「ムック r」を鳴らします。

ムック r は、アイヌの代表的な楽器で世界各地に分布する、口琴の一種です。

この楽器は竹で出来ていて、竹に付けた紐を引っ張り、振動させて音を出します。

息を吸ったりはいたりしながら音を変えていきます。

昔は男性から女性への贈り物として作られたり自分の思いを込めてムック r を鳴らして愛情の表現に用いられていたようです。

次に「ウフンペネレ」という寄りクジラの舞を踊ります。

これは、目の不自由なおばあさんが「目のある人々、浜へ出てください、ゴミだろうが、クジラだろうが、あがっているよ、目のある人々、浜へ出てください」と目の見える人と呼ばひ、「私はほっぺたの肉を食べる、私はおなかの肉を食べる」といいながら、クジラを運んでいく踊りです。

本来は、運んだクジラ役の人を雪の上などに「ポ〜ン」と放り投げるのですが、雪がなく放り投げられないのでクジラ役に人ではなく、人形を使っておどります。

最後に「ホリッパ」という輪踊りを踊ります。

これは、アイヌ民族の儀式やお祝い事の最後に、全員で囲炉裏の周りを輪になっておどる踊りです。

昔むかしは何時間でも踊り続けました。

平取地域では「ホリッパ」と言い、他の地域では「リ m セ」と呼ばれます。

これで古式舞踊の概要の説明を終了させていただきます。イヤイライケレ。(ありがとうございます。)

*Pli sciu pri Hiroshima (もっと広島を知ろう) : 抄訳「ひろしま通になろう」エスペラント版: 2012. 5. 1 発行、原作: 中国新聞社、翻訳: 広島エスペラント会、A5 X54頁+表紙、上質コート紙を使用、カラー写真(表紙をのぞき) 42枚、エスペラント文。広島の歴史と現在の解説。本体定価 1500 円。

*Novajoj Tamtamas: Internacia Gazeto de Jokohama Esperanto-Rondo (JER, Hama-Rondo); N-ro 269/ majo 2012, A4X4頁、全文E. NIAJ PLANOJ の予定表の中に生誕百年になる長谷川テルについての話 (DOI Ĉieko)も。

ESEO欄の Kaloĉaja skolo kaj japanaj esperantistoj/SIBSYAMA Zyun'iti は utao(和歌、短歌)の翻訳について Kaloĉaj, OSSAKA Kenji, MIYAMOTO Masao の手法を比較したもの。

*Ponteto/ (Bulteno de Esperanto-Ligo en Regiono Kantoo: 関東エスペラント連盟)/ Majo 2012 N-ro 252, B5 X16頁のうちE文7頁は Leteroj de Tigro(3)Ĉina-japana rilato en Honkongo と Poemo:Varman mondon sen nukleaj centraloj. 第61回関東エスペラント大会(6月16~17日、箱根)の内容豊富な予告と「マリー・

ホーとその生徒たち/堀泰雄」がおもしろい。

*La Tamtamo: 第443号, 2012年5月号, A4X8頁、横浜エスペラント会/JER発行、日本文。ハマロンダ・ベスペーロ予告に「ミレーユが帰ってきた!」がある。今度はアフリカの話。

報告は4月の「エスペラントで歌う小学生」のビデオ(牧野三男製作)、3月ハマロンダ・ベスペーロ報告は「チボル・セケリの生涯とエスペラント」
*Mejlstono: 2012 majo N-ro 228, 仙台E会: B5X 10頁中E. 文1頁は: Funebra sciigo de s-ro Ŝoji Tokio.

「東北人井上万寿蔵/後藤齊」は 元交通博物館長・J E I 常務理事だった pioniro (1900.1.2~1977.4.8) について。

*民衆史道連ニュース: 人権と民主主義を守る民衆史掘り起こし北海道連絡会、2012年5月7日 再開 第8号、5月12日の道連再開総会への呼びかけと案内。

*民衆史道連ニュース: 再開 第9号 5月12日の再開総会(札幌市教育文化会館)の報告、関連資料、新聞記事、1976年以来の民衆史運動の年表など

*受講生通信 第142号, 2012-06-01, 沼津エスペラント会, B5X12 頁の内E.

文1頁。北海道からの受講生の顔、見えず。九州、沖縄の知人の文はある。

*La Movado; 関西エスペラント連盟 (KLEG) 発行, N-ro 736 junio 2012, B5X16 頁のうちE. 文4頁弱。巻頭言の Ni pli kaj pli proksimiĝas al la celo/Bharat Kumar Ghimire(Nepalo) は自国の特性、観光とエスペラントを結びつけた運動の成功例 (Himalaja Renkontiĝo)。文学作品対訳、太宰治の「朝/La mateno/ 小西岳訳」が始まった。Kajero Libervola/HIROTAKA Masaaki はブローニュ宣言の引用 (Esperantismo) でよく省略される uzadon の重要さを追求、「言語」の本質に迫っている。

*NOVA VOJO : N-ro 485 JUNIO 2012 EPA (エスペラント普及会)、A5 X32 頁のうちE. 文11頁半。対訳の「生きがいの探求/出口日出磨著・伊藤栄蔵訳」、「おさながたり/出口すみこ著・前田茂樹訳」が連載中。

*Novajoj Tamtamas:(JER, Hama-Rondo); N-ro 272/junio 2012, A4X4頁、全文E. "La flava florvazo/HIROSE Kanae" は 1965 年の東京 UK に参加したあと日本に住んでいたが悩みににおちいて世を去ったS-ro Hans Dietrich Neumann の思いで。BELETRO の頁ではエロシェンコの「一本の梨の木」の共

同翻訳が連載中。

*La Tamtamo: 第444号, 2012年6月号, A4X8頁、横浜エスペラント会/JER 発行、日本文。「米国よりエスペランチスト来訪」は Ges-roj Rubinstein, 5月ハマロンダ・ベスペーロ報告はミレーヨの AFRIKA ETOSO.

*民衆史道連ニュース 2012. 6. 7 再開第10号: 6月30日フィールドワーク (樺太アイヌ対雁・来札強制移住跡地) のご案内。

*Eskalo 第145号(2012年第3号)、2012年6月20日、川崎E. 会、B5 X8 頁のうちE. 文合計1頁半。その大半はネットで話題になった詩「ふくしまで暮らすということ」のE. 訳。

*La Movado; 関西エスペラント連盟 (KLEG) 発行, N-ro 737 julio 2012, B5X16 頁のうちE. 文4頁弱。巻頭記事は10月の日本大会 (札幌) の広報文。昨年から続いている「わたしが出版を担当した本/峰芳隆」は本号で8回目を迎える。楽譜 "Jupitero, Steljuvel" は第60回関西エスペラント大会記念企画の歌詞コンクール最優秀作。ホルストの組曲「惑星」のなかの「木星」の第4主題で歌う。La Movado 欄で鹿児島島の「賢治と学ぶエスペラント講座」の紹介。テキストは「銀河鉄道の夜」。

Protokolo de la 13a Kunsido de Loka Kongresa Komitato por
la 99a Japana Esperanto-Kongreso[第99回日本大会13回 LKK会合 議事録]

[日時・場所]

2012年5月13日(日) 13:00~16:00

札幌エルプラザ 市民活動サポートセンター 消費者サロン1

[出席者]

星田(進行)、川合(記録)、犬丸(KKS)、後藤(純)、後藤(義)、
阿部、横山

(オブザーバー) 末永、小淵、山下(大会郵便局関係) 中田実、前川治哉

★「項目一覧」(犬丸氏作成)に沿って

1. 計画書・予算書・参加者

計画書・予算書は完成した→後援依頼に用いる

参加者を増やすため、JEIから参加呼びかけ状を発送すること、各地方大会での宣伝を考えている(犬丸)。

2. 後援依頼

JEI理事長印のある書類などは犬丸氏が持参された。

進捗状況: 道庁などの公的のところはおおむね順調。マスコミ関係はまだ交渉中のところあり。

3. 開会式出席依頼(北海道、札幌市)

まだしていないので、早くするべき。

挨拶の文書(mesagxo)をもらってKongreslibroなどに載せたい→後援依頼の際に、長崎JEKのKongreslibroや報告書(冊子)を見本として持参して依頼する。

4. 広報

4-1. 地元での広報

公開番組をPRするチラシやポスターを撒く。JEKの1~2ヶ月前のタイミングがよい(犬丸)。道庁知事室広報部の岩下氏を後援依頼に行く際に訪ね、協力を求める(後藤(純)、横山)。

北海道新聞社催し物案内HPの原稿を発送する(川合)。

4-2. R0誌5月号記事: 済み

5. 番組

<大会番組>

公開講演: 石城謙吉「人と自然の共存の歴史」

入門講座(←講師未定)

講演: A. チターエフ「ロシア極東地方の自然保護(仮)」←一般公開にすることを検討 →来訪取り消し

講演: 山田伸一(北海道開拓記念館)「同化政策にともなうアイヌ語への抑圧(仮)」

分科会: 「よみがえれ、えりもの森」←DVD上映後、間伐ボランティアの中野常明さん(SES, HEL)に森と人に関する話をしていただく

(→後藤(純)交渉)。E版レジュメも作りたい。

分科会: アイヌ語概要(横山)

分科会: 北海道のE運動→星田、後藤(義)、中田など。児玉広夫さん(SES, HEL)に協力を依頼。SES例会の機会を中心に6月中旬着手。

<JEI関連番組> (長崎ほかを踏襲) (略)

<初心者番組・E語番組>

講師として忍岡妙子さん、藤本律子さん、クレーマンさんご夫妻など
(→犬丸交渉)

<公募分科会> (略)

<その他>

Interkona/Amika Vespero: 樺山裕介さん (HEL) 根回し中 (川合)。

6. 大会郵便局、記念切手

・郵便局職員がいる時間帯を、大会直前案内までに確定して、掲載する。
・記念切手と併せて、封筒・葉書も販売する (会場から発送する人のため)
←これがないと切手は売れない (前川)。

・80円切手4種、50円切手2種を各50シート売れると仮定して作成する。

総費用は約40万円。HEL会計から立て替える→承認

7. 宴会 (略)

8. 弁当 (略)

9. 観光

大会後: 手頃な価格の計画の見積もりが取れた。今回合後、正式に申し込む (後藤 (義)、後藤 (純))。

参加費を少し上げて、利益が出るようにするか、思案中 (犬丸)。

大会前・大会中: 案内のみ配布し、個人で行ってもらう。案内には札幌観光振興公社の発行するパンフ (1枚5円、200部購入) を直前案内に挟み込む。

10. 記念出版

(1) 絵本 (略)

(2) 観光案内: 「北海道開拓の村」の英語版パンフにエス版を作って挟み込んで (小淵) →作る、と決定

(3) 連盟史: R05月号 (星田) で終わり。

11. 環境関連エス語彙集: 目下、収穫ゼロ。担当者 (川合) がまず実際に動き出すこと。

12. ホームページ (略)

13. 国外からの参加

・ウラジオストクのロンド「Pacifiko」から→8月初旬までに書類を整える (星田、犬丸) →来訪取り消し

・韓国から何名か参加が見込まれる。

14. E発表125周年 (2012年)、100回大会 (2013年) との関連番組 (略)

15. 会場

(1) 番組振り分け: 仮割り振りをしてみる→犬丸素案作成

(2) プロジェクタ: 「えりもの森」のDVD、エスペラント映画 (参加者より提案) の映写装置は未定。

(3) 図書販売 (4) 郵便局→「かでる」側の規制 (商行為はしてはならない) をクリア、許可が出た。

16. その他

参加受付: 5月1日現在、166名 (実参加132名)。

宴会64名・観光41名→増える可能性あり。

参加自体の申し込みは当日まで可 (メ切なし)。

観光申し込みメ切→R07月号 (La 3-a Informilo挟み込み) に明記する。

大会会長: JEI現理事長・柴山純一氏に依頼する (犬丸)。大会の時点では「前理事長」になる。

17. 分科会申し込み受付

(1) 分科会：申し込み×切を6月30日に設定。申し込みに対する返信は犬丸担当。川合が補佐。

(2) サロン出店：テーブル1つにつき1000円の使用料を受け取る
(例年通り) → 決定

(3) 文芸コンクール (略)

18. 印刷物

(1) La 3-a Informilo : R07月号、直前案内 : 8月中

(2) Kongreslibro (略)

(3) 報告書 (略)

19. 役割分担 (当日)、大会ボランティア (略)

20. 次回LKK会合

7月1日 (日) 13時より。場所未定。

北海道エスペラント連盟第6回委員会議事録

日時：2012年5月13日 (日) 16:00~17:00

場所：札幌エルプラザ 市民活動サポートセンター 消費者サロン1

出席者：横山 (進行)、川合 (記録)、星田、後藤 (純)、後藤 (義)、阿部、山下、末永、小淵、前川治哉 (オブザーバー)

[組織]

新入会 (予定)：柳幸三郎氏

退会：渡辺康子氏 (ご病気)、西田光徳氏 (ご逝去)

[財政]

次回委員会 (7月) で次年度連盟会計予算案を組みたい。原案は後藤 (純) が作成する。

[広報]

ホームページ：アクセス数は67719 (3月19日比+200)。JEK関係を充実させた。

メールマガジン：5月12日に第154号発行。467部 (前回と同じ)。

[教育・研究]

来年 (春または初夏) は合宿を行いたい。

[地方会]

<札幌>

月曜：『星の王子様』まもなく終了。次はシャーロック=ホームズの作品を予定。

土曜：『Sur Sanga Tero』

<苫小牧>

『銀河鉄道の夜』まもなく終了。次は『グスコブドリの伝記』を読む予定。入門講座を5月15日に開始予定。

昨年入門した新人は、その後学習を続けている。

[機関誌]

『Heroldo de HEL』5月13日に141号を90部発行。

[年間計画]

- ・ 当面、JEKに集中する。
- ・ エルプラまつり (9月) には参加・出展する。

[その他]

- ・ JEI 団体会員の入会手続きに入る。団体の種類は「41~100名の地域団体」

(年会費4000円)に該当する。

・エルプラザの登録団体更新の時期が来た。HELの連絡先住所は横山(郵便物を確実に受け取るため)、電話は川合、メールアドレスは横山(連盟用)とする。

[次回委員会] 2012年7月1日(日)

[編集後記/Redaktanto parolas ...]

*長く Heroldo de HEL の編集に使っていたワープロ (Panasonic U1-PRO FW-U1 P97F)、そろそろ寿命が来たようです。ネットからのデータや原稿のやり取りに使っていた MS-DOS テキストファイルのフロッピーディスクが使えなくなりました。この分はパソコンの中で編集処理するしかなく、MS-Word をいじっていますが、不慣れなので見苦しいものになるかも。Pardonon !!!! supersignoを x 方式で書いてきた原稿、そのまま出しました。

*このワープロは既にかかなり以前から生産終了、部品の準備もない、とのこと。壊れたらそれまで。Word にくわしい方、ヒントをください。

*B5 の感光紙がなくなったら大きさを A4 に変えることになるでしょう。

北海道エスペラント連盟 会費/年

正会員 3000円、青年会員(26歳未満) 1500円、
購読会員 2000円、家族会員 1000円

HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO

*Redaktas la Organa Fakoj de HEL
ĉe HOŝIDA ACUŝI

Miyanomori 2-18-18, TOMAKOMAI
053-0844 JAPANIO

TEL-FAKS: 0144-74-2539

Postgirkonto (郵便振替) : 02700-6-17075

*Sekretario: KAWAI Yuka

N-ro 45, Simin-Katudo-Sapoto-Senta
Sapporo L-Plaza 2F, Kita 8 Nisi 3
Kita-ku, Sapporo, 060-0808 Japanio
TEL-FAKS: 0126-62-4636

Retadreso: nordano@sea.plala.or.jp

*TTT-ejo: <http://www5d.biglobe.ne.jp/~hel/jp/index-j.htm>

北海道エスペラント連盟

*編集: 連盟機関誌部

〒053-0844 苫小牧市

宮の森町2丁目18-18

星田 淳 方

Retadreso: hosidaacusi@kir.biglobe.ne.jp

*事務局: 川合由香

〒060-0808 札幌市北区

北8条西3丁目札幌エルプラザ

市民活動サポートセンター レターケースNo. 45